

沙羅の樹文庫だより



新刊として入れました。読んでみてください。
勇気づけられることばです。でもなあ、咲くには咲くだけの・・・、
そんなことを考えて気の滅入る6月の雨です。

そんなときは、子どもと一緒にくことばあそびで気分転換!

		いるか		
いるか	いるか			
いないか	いるか			
いない	いない	いるか		
いつなら	いるか			
よるなら	いるか			
またきて	みるか			
		いるか	いないか	
		いないか	いるか	
		いる	いる	いるか
		いっぱい	いるか	
		ねている	いるか	
		ゆめみて	いるか	

谷川俊太郎詩(『ことばあそびうた』より)

◆2012・文庫の催し物◆

★海の日のおはなし会★

7月15日 午後5:00~7:30 伊豆高原駅・大楠の下
1部 文庫の子どもたちのお話を中心に
2部 うたと音楽
3部 おとなのしつとりとしたお話

♥文庫開館記念子どものためのおはなし会♥

7月16日 午前10:30~12:00 (文庫で)
ベテランのおばさんたちから子どもたちへ
手遊びとおはなし・紙芝居

☆屋下がりのひととき読書会☆

(好きな本についておしゃべりしましょう no.2)
未定(8月か9月に)

♪秋の夜長のおはなし会♪

10月20日 午後5:00~7:00(おとなの人向け)

★★クリスマス・おはなし会・お楽しみ会★★

12月16日(日)予定

これからの開館予定日

◆6月は通常16日(土)、17日(日)

◆7月は通常14日(土)、15日(日)

★15日は夕から、海の日のおはなし会

★海の日16日(月)は、開館記念日子どもおはなし会

◆8月は、15日(水)~19日(日)長期開館

◆9月は通常15日(土)、16日(日)

◆10月は通常20日(土)、21日(日)

◆11月は通常17日(土)、18日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜11:00~13:00

連絡先：沙羅の樹文庫

☎0557-51-3737

文庫あれこれ◆5月の文庫での出来事をいくつかお話ししましょう。16日~20日のあいだ、会員以外に20数名の旅人が来館されました。ここまで来てくださる方たちは、やはり、本好きです。若いカップルが多く、緑に囲まれた建物でゆったりと、懐かしい本に再会し、新しい本に巡り合えてよかった、とみなさんが感想を寄せてくださいました。これこそ、私たちの喜びです!
◆次に、珍客?有名人?について。その1. グラナダのほうから見えられた足もとのおぼつかない3人連れの方。ウッドデッキの方から入って見えて、スペインの本はありますか、詩の本はありますか、と中のおひとりが尋ねられます。詩の本棚にご案内し、殆どが子どもに読んでやるようなものだけです、と答えると、私は詩人ですと。お名前を伺っても私は存知あげず。ああ、子どもの本も書いてますよ、(その1冊が、今回入れた『たぐぼーとのいちにち』)と。慌てて検索をかけると、あるわあるわ、詩に関する著作が大人物子ども物たくさんでした。そして、小海永二さんは、ゆっくり書架をまわり、翌日、ご自分の著作集を2揃い届けてくださったのです。また出会いはこれでは終わらず、東京へ帰る電車もご夫妻と同じだったのです。文庫を紹介し、小海夫妻を連れてきてくださった細川さん父娘にも感謝です。◆その2、明治学院大のゼミの学生と先生がやはりグラナダから母家を通して降りてきました。先生の姓を聞いてもしや、と検索したら、こちらは明治時代の児童文学の開拓者・巖谷小波のお孫さんで仏文学者でした。こちら、私が通った白金小学校が明学のそばで、高輪で育った巖谷さんと接点ありで面白かったです。◆また最終日に、彫刻の重岡さんがお孫さんと子どものおはなし会にきてくださったのはとても嬉しいことでした。出会いの不思議さを味わえるのもアートフェスティバルですね。◆そして最後に、若葉のころのおはなし会のあとに、初めて開いた読書会、スタッフのNさんの司会よろしく、時間の立つのも忘れ、それぞれの方のお話がとても楽しく心に残りました。次の機会にはぜひあなたもごいっしょに! ★読書会の模様は別紙を読まれたし★ (西村)

♥♥♥本の返却についてのお願い：返却予定日にやむを得ず来られない場合は、連絡を入れて、次の月には必ず返却して下さるようお願いいたします。順番を待っている方もいます。本はみんなのものです。♥♥♥

伊豆高原 たより No.5

～初めてアートフェスティバルに参加して～

ちょうど去年の今頃、突然、夫が「来年のアートフェスティバルに参加する」と言い出しました。「フェスティバルってお祭りね、だったらお祭りが大好きな私も参加したい!」とまあ、わくわくした気持ちになってしまったのです。それで、夫の拙い絵を見に来て下さる方にお茶の一杯も差し上げたい、それにちょっとした甘いものを添えたらどうかしら、帰りには庭の花を見て楽しんでもらいたい、それで何の才能も特技!もない私もそれが参加になれば、という思いで準備をしてきました。

四月になりマップが配布されました。夫のスペースは21番「ねこまんま」。夫の絵の半数はわが家の猫、犬がモデルになっているので、その名前にしたのです。

そして五月一日のOPENの日がやって来ました。私たちのところは朝10時から午後4時までです。10時を一時間過ぎても誰も来ません。このまま誰も見に来てくれないのでは? 部屋の内から立ち上がっては外の駐車場を見たり、うろろろしていると、最初の方が「初参加おめでとう!!」っと、言いながら入って来ました。それから心配していたのが嘘のように、遠くは名古屋、千葉、横浜、東京と県外の方、近くは友人、知

驚くことに、「今年は14回目です。毎年同じペンションに泊まって作品を見て廻るのがゴールデンウィークの過ごし方



になっています。」という方とか、今年で20回目という方が県外から2組のご夫婦もいて、リピーターが多いということが参加してみて初めてわかりました。それで、アートフェスティバルを多くの方が楽しんでいらっしやるのだと、改めて実感したのです。

200名の方が来て下さり、絵は勿論のこと、猫、犬のこと、音楽(何と2組のプロのフルート奏者もいらっしやっつて)、ガーデニング、ご夫婦のなれそめ等々、お茶を飲みながら話はどんどん広がって、毎日が楽しく過ぎていきました。

そして、とうとう最後の日が来てしまいました。嬉しいことに、文庫開館中にも拘わらず、仕事の合間を縫って、若いスタッフが連れだって来てくれました!!

期間中は疲れましたが、終わってみると、気が抜けたように淋しく、毎年参加している方は、きっと、あの充実感と楽しさの魔法にかかってしまっているのだと、思ったのでした。(森川 理恵)

皆さんの身近なホット・ニュース、お待ちしております。ご連絡は、メール: atsuko@big.or.jp 又は、ファックス: 03-3709-7840 までお寄せください。

☆若葉の頃のおはなし会(大きい人向け)☆

2年ほど前から、大人のおはなし会に小学生も参加してくれるようになりました。少し難しいかなと思ったり、怖いかないと考えたりもしますが、よく聴いてくれます。肉声で聴くおはなしはまた格別ですよ。今年には文庫のスタッフだけでやりましたが、みんなよい語り手になってきたでしょう!! 今回は、こんなプログラムでした。

世界の昔話: わかっている人はわからない人に(トルコ): 大場弥生 トウモロコシどろぼう(メキシコ): 中西景子 トタンクワック(カナダイヌイット): 西村裕子 金の髪(コルシカ): 西村敦子 創作: あの坂をのぼれば(杉みき子作): 西村敦子 蜘蛛の糸(芥川龍之介作): 西村裕子 ★おはなしは、語り手と聴き手のキャッチボール! まだおはなしを聴いたことのない方、ぜひ、おはなし会(7月、10月)へ足をお運びください★

新しく入った子どもの本2012.6

絵本: 『麦の穂』(エウゲーニイ・ラチョーフ絵 田中潔訳 ネット武蔵野04) 『かしいビル』(ウィリアム・ニコルソン作 まつおかきょうこ・よしだしんいち訳 ペンギン社03) 『おどる12人のおひめさま』(ロール・ル・カイン絵 やがわすみこ訳 ほるぷ出版80) 読み物: 『ふりむいた友だち』(高田桂子作 佐野洋子絵 理論社85) 『緑の森の神話』(折原みと作・絵 ポプラ社91) 『約束の丘』(コンチャ・ロペス・ナルバエス著 宇野和美訳 行路社01) ※以上は新刊ではありませんが読み継がれている本です。『サクラ咲く』(辻村深月著 光文社12) ※新刊で目下中高生に受けてる本。

「今、方丈記を読む」 中西 景子

私は、もう何年も、週一回のペースで百人一首のカルタ取りを続けています。頭も運動神経も使い、何が先に詠まれるかの運もあって、その面白さは飽きることがありません。

その中で、5月初めに毎日新聞にとりあげられた「方丈記」の記事をみせてくださった方がいて、すぐに「みんなで読み合いましょう」ということに決まりました。

12世紀に生きた鴨長明が出会った、大火、辻風、飢饉、大地震の災害ルポルタージュであり、大震災後の私たちが今何をしたらいいかの示唆にあふれている、という解説でした。それも20ページという短さです。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」と誰でも知っているその冒頭の文章ですが、中味について私は全く知りませんでした。まだとりかかったばかりですが、あるがままの自然を受け入れ、人と支え合い、どう生きるかを考えられたらと思っています。

新しく入った大人の本 2012.6

『日御子』(帚木蓬生著 講談社12) 『美しき一日の終わり』(有吉玉青著 講談社12) 『燃焼のための習作』(堀江敏幸著 講談社12) 『K』(三木卓著 講談社12) 『三国志6』(小前亮著 理論社) ※request 『墮落と文学』(曾野綾子著 新潮社) ※request

『置かれた場所で咲きなさい』(渡辺和子著 幻冬舎12) 『バーンスタインわが音楽的人生』(レナード・バーンスタイン著 岡野弁訳 作品社12) 『いい病院へへの挑戦』(宗田理・律著 角川学芸出版12) ※request 『キノコの教え』(小川眞著 岩波新書12)

寄贈

『銀の匙』の国語授業』(橋本武著 岩波ジュニア新書12) 『第二図書係補佐』(又吉直樹著 幻冬舎よしもと文庫11) 『鉄の骨』(池井戸潤著 講談社文庫11) ※会員より

『小海永二著作撰集全8巻』『小海永二翻訳撰集全6巻』(丸善07~08) ※著者より